

令和4年度 学校自己評価（職員年度末評価）

25 長野県屋代高等学校・附属中学校

職員による年度末評価 A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分 回答総数 70

評価項目	評価の観点	今年度の取り組み	今年度の成果と反省・来年度への課題	職員評価				
				A	B	C	D	指標
1	学校づくり	<p>新しい学校づくりに向け、普通科教育・理数科教育・中高一貫教育およびSSH5期のプログラムについて更に研究を深め実践することができたか。</p> <p>例年の取組 ・SSH科目「グローバルサイエンス」「アカデミックサイエンス」での特別講義の実施 ・探究活動の実施 「科学リテラシー」「一人一研究」「課題探究(普通科)」「課題研究(理数科)」 ・第36回 SSHサイエンスフォーラム 5月10日 ・「SSHミニフォーラム」5月24日「SDGs」 ・「科学に親しむ教室」(地域貢献のための取組) 7月29日 8月5日 ・「東北サイエンスツアー」8月1日～3日 ・「SSHミニフォーラム」の実施 10月28日(金)「SDGs」 ・「坂城中学とのサイエンス交流会」の実施(地域交流) 12月19日(水) 2年理数科8名参加 ・SSH科目「グローバルサイエンス」「アカデミックサイエンス」での特別講義の実施 ・「動植物を用いた実習・実験」(地域交流) 2月11日(土) 地域の小学生 ・第39回 SSHサイエンスフォーラム 3月3日(金)予定 「ブラックホールと宇宙の始まり～世界を面白がる方法としての物理学～」 東京学芸大学教育学部准教授 小林 晋平 氏 ・各種科学コンテストへの参加</p>	<p>・学校長のリーダーシップの元、全教員の協力が得られているおかげで、ほぼ計画通りに実施できている。 ・20年目を迎えたSSHですが、新たな連携先を探ったり最新技術を紹介してもらった講演会を企画するなど、多くの先生方のご尽力によって生徒にとって魅力的で学校の特色を生み出すことが出来ている。 ・コロナ禍においても、工夫して探究活動を推進してきた。 ・後期にはSSH第5期の中間審査が控えているため、その準備に追われている。</p> <p>・地域交流を目的に実施した「科学に親しむ教室」や「サイエンス交流会」は地域にとっても、高校生にとっても良い経験や交流の場となっており、今後も継続していきたい。 ・月2時間の探究時間をどう活用していくか検討していく必要がある。また、探究活動を通して生徒を育成していくという認識を、職員全員が持つことが重要である。生徒任せにしているだけではお互いに成長しない。 ・普段の授業を探究活動と結び付けられないか？授業の中から、探究のテーマが設定できると良い。</p>	19	37	5		81.8
		月に1回程度(年10回)のオンライン・探究学習日を設けた。前期は5月～8月に4回実施。(中学)	午後の探究学習の時間を充実させる取組が必要。(中学)					

評価項目	評価の観点	今年度の取り組み	今年度の成果と反省・来年度への課題	職員評価				
				A	B	C	D	指標
2 キャリア教育	キャリア教育体制を検討し発展させることができたか。	<p>夏期休業中には補習を5日間、学習合宿の代わりとして同様の日程で学校学習を3日間実施した。学校学習には毎日希望者100名余が参加して長時間学習に取り組んだ。(高3)</p> <p>従来の指導体制に基づき、補習(朝、放課後、土曜)・特編授業・模試準備や復習の徹底等、さらに基本的な生活習慣の確立等の生徒の意識付けにも取り組んだ。(高3)</p> <p>「文理別キャリア講演会」「つくばサイエンスツアー」「屋代ミニ大学」等の企画を計画実行できた。(高2)</p> <p>学年通信や学年集会等で早めの進路決定を呼びかけた。屋代ミニ大学を今年度はほとんどの大学の先生にオンラインではなく対面でやっていただけた。(高2)</p> <p>夏休みのジョブシャドウイング、6月と9月に社会で活躍する本校OBによるキャリア講演会を実施することで進路を考える機会を提供できた。また、その経験が学習への意欲を高める結果につながった。(高1)</p> <p>キャリア講演会を2回実施し、ジョブシャドウまたは大学見学や文理選択レポートをとおして、文理選択や進路希望を考えるきっかけ作りとした。(高1)</p>	<p>9月からの朝・放課後・土曜補習への参加や1棟での自主学習等を通じ、集団として受験に取り組んでいくよう指導する。(高3)</p> <p>全体としては例年通りであったと思うが、コロナ禍の影響もあるためか授業を休むことに抵抗感がない生徒が若干名いた。学校生活に最後まで取り組み、受験に向かう集団作りをさらに考えていく必要がある。(高3)</p> <p>コロナ禍のためオープンキャンパスなどで大学を見学することが思うようにできないため、さらに生徒の進路意識を高める日常での取り組みの工夫が必要である。(高2)</p> <p>共通テストに対応できるように授業進度を考えながら、生徒の現状に即した指導法について研究を深めたい。(高2)</p> <p>文理選択などの指導を通じて、2年次以降の学習へスムーズにつながるよう指導・支援することが大切である。(高1)</p> <p>目標が明確に定まっている生徒と、全く見通しが立っていない生徒の差が大きい。勉強のモチベーションを高める意味でも、早めの進路の意識付けをしていきたい。(高1)</p>	25	36	9		80.7
		<p>8月29日に「先輩の話を聞く会」を実施。2期生と4期生の卒業生の話を聞き、在学時の過ごし方や進路決定について講演いただいた。(中学)</p> <p>他学年のキャリア教育計画を参考に、進路指導等を行った。(中1)</p> <p>進路情報の資料掲示、大学見学、高校入試模試の実施(中3)</p>	<p>身近な先輩の経験は、中学生にも実感が湧きやすい講演となった。10周年式典で最後となるが、今後も継続していく意義がある取り組みである(中学)</p> <p>6年間を見通して、中高他学年のキャリア教育と情報共有しながら進めることができた。(中1)</p> <p>県内の中学生の中でどの位置にいるか意識させたりすることができた。大学での学びの見通しを持たせることができた。(中3)</p>					
		<p>4月「BYOD」一人一台端末の導入。(情報・高1)</p> <p>ipad80台整備(情報)</p> <p>5月コロナウイルス感染拡大に備えた「オンライン授業日」の実施。(教務・高1～高3)</p>	<p>BYODの導入は2年目になり、研修や研究も進んでおり、年度当初からスムーズな導入や運用ができた。</p> <p>オンライン授業日の実施についても、生徒への事前指導や職員の授業体制がスムーズにできたため、混乱なく運用ができた。</p> <p>ICT機器の活用を日常の学校生活の中でどう位置づけていくのか、まだまだ検討を重ねていく必要がある。</p>					
	進路情報を生徒・保護者に向け有効に発信できたか。	<p>節目節目で学年集会(4月、6月、8月、11月の4回実施)を開いてキャリア担当係より話をし、意識の向上に努めた。また学年通信を年間を通じて約25回発行して、必要な情報を共有できるようにした。(高3)</p> <p>保護者向けにはオンラインによる科目選択説明会を、生徒には学年集会により説明を行い、志望学部の入試科目と3年次の選択科目を研究させた。三者懇談会や学年通信を用いて、進路実現に向けての情報を共有した。(高2)</p> <p>保護者向けには文理選択説明会を、生徒には学年集会により説明を行い、文理選択について研究させた。三者懇談会や学年通信を用いて、進路実現に向けての情報を共有した。(高1)</p>	<p>模試、共通テスト、個別試験、推薦入試に関する情報を細かく発信することができた。(高3)</p> <p>多くの生徒は目標が定まってきているが、まだ進路の方向性がはっきり見えてきていない生徒がいる。(高2)</p> <p>今年度は大学見学を実施した。コロナ禍の影響で受け入れ人数が制限されたため、県外の大学にも訪問し、生徒の進学に対する意識が高まった。(高1)</p>	25	33	12		79.6
		<p>学年通信・学級PTA・保護者説明会・学年集会等を通じて学校行事、進路・学習に関わる情報の提供ができた。(全学年)</p> <p>高校の進路便りや前年度の進学実績を紹介したり、学年PTAでは学力推移調査の過年度比較等を説明したりした。(中学)</p>	<p>更に情報を充実させ、三者での情報の共有・理解を深めたい。(全学年)</p> <p>第2回学力推移調査の結果を分析し、生徒、保護者へ説明していきたい。(中学)</p>					
		<p>大学見学を実施し、信州大学繊維学部・医学部、長野県立大学の先生方の話を聞くことを通して、自分の進路について考える機会を設けた。(中3)</p>	<p>学年PTAや学年通信を通して、学習内容を伝えた。今後も情報提供や学習内容を伝えていく。(中3)</p>					

評価項目	評価の観点	今年度の取り組み	今年度の成果と反省・来年度への課題	職員評価				
				A	B	C	D	指標
2	キャリア教育	<p>科目数を絞らないことが本校生にとって有利であることを強調し目標を下げないように指導している。(高3)</p> <p>科目を減らさず、5-7,8型で最後まで諦めずに学習に取り組む指導を行った。(高3)</p> <p>生徒には学年集会や科目選択説明会を通じて志望校や学部を研究させた。教員側は各教科の指導の取り組み情報や調査毎の成績情報を学年で共有し指導に活用した。共通テストに実際にチャレンジすることで、今後つけるべき力を確認させた。(高2)</p> <p>進路講演会を実施して、大学選択や職業選択の視野を広げるように努めた。また、文理選択説明会等でも話の中で、大学や入試について知識を深め、幅広く学習することの意義を強調した。(高1)</p> <p>学年集会、保護者説明会、キャリア講演会などを通じて、大学や入試について、知識を深め、幅広く学習することの意義を強調した。(高1)</p>	<p>模試の結果をふまえて、あきらめずに最後まで頑張らせたい。(高3)</p> <p>例年と同様に、最後まで粘り強く学習に取り組む89%の生徒が5-7,8型で受験を行った。(高3)</p> <p>高い志望を持たせながら学力の向上を図りたい。(高2)</p> <p>各教科の学力をバランス良くつけるために、教科間の連携や調整が一層必要となる。(高2)</p> <p>各成績層に応じた取り組みの重視。および、2年次以降の進路指導を通じて、全教科にわたる総合的学力の養成をめざすよう指導を行いたい。(高1)</p>	25	38	7		81.4
		<p>6年間を通して、どのような力をつけていくかを意識させるよう生徒に話したり授業づくりをした。りした。(中1)</p> <p>立志館事業として「特別講座」(数学・英語を計画)を同窓会館で延べ12回実施。</p> <p>8月「夏休み学習会」の実施。9月調査前「毎日CSS」の実施。</p> <p>昨年度に引き続き、水曜日の放課後に「CSS」を行っている。(中学)</p> <p>高校進学に向けた面談、中学校生活のふり返り、朝学習、単元テストの追試(中3)</p>	<p>前期の成績等を踏まえ、後期の授業づくりをしていきたい。(中1)</p> <p>後期に向けて講師の確保と謝礼(支出と所得税)の対応が必要。(中学)</p> <p>高校での生活について、日常のSHRで伝えてきた。生徒の後期末のふり返りからも高校進学に向けた意識づけができたと思う。(中3)</p> <p>チェックテストや朝学習等を通して、基本的な学力の定着に努めることができた。(中3)</p>					
		<p>定期調査や模試分析を通して各科目の学力を把握し、生徒の指導に対処してきた。(高3)</p> <p>3年間模試分析を通して各科目の学力実態を把握し、授業をベースにしなが、目的別の補習や個人添削等でより個々に適した対処をしてきた。(高3)</p> <p>面談や模擬試験等の機会を利用しながら、志望学部・大学等を考えさせる指導・支援ができた。(高2)</p> <p>学習成績や面談等を通じて生徒の実態を把握し、学年全体としても改善すべき点を確認、検討した。(高1)</p> <p>各調査の結果、及び年間を通じての個人面談により集団と個々への指導を繰り返した。(高1,2)</p>	<p>生徒のメンタルな部分も支援しつつ、学力の伸張を図っていきたい。(高3)</p> <p>生徒の心に寄り添う点にも配慮しつつ、学力の伸長をはかっていきたい。(高3)</p> <p>修学旅行明け、11月以降スムーズに受験体制へ移行できるようにしたい。(高2)</p> <p>生徒の学習実態を継続的に把握し、学年や各教科で情報を共有したい。(高1)</p> <p>各成績層に合わせた「学習内容」を充実させていく必要がある。(全学年)</p>					
	<p>学びの基礎診断等により生徒の学力や生活実態などの情報を把握し、それを集団と個々に応じた指導に活かすことができたか。</p>	<p>4月「スタディサポート」実施。(高1・2)</p> <p>4月・9月「学力推移調査」実施。「通知表」のほかに「テスト成績表(年2回)」や「学びの軌跡(年4回)」を発行。(中学)</p> <p>各教科でチェックテスト、学力推移調査、保護者懇談会、アセス 個人面談の実施。(中学)</p> <p>学力推移調査の結果から学年の傾向を把握したり、個人結果をもとに個人面談や保護者懇談会に臨んだ。(中1)</p> <p>個別支援を必要とする生徒もいるので生徒の実態に合わせた授業内容にするように努めている。(中3)</p>	<p>各調査の成績やスタディサポート等を利用して学力や学習状況の把握を行い、個別面談等の指導に生かした。生徒の学習実態を継続的に把握し、学年や各教科で情報を共有したい。(高2・高1)</p> <p>定期的に学習状況を振り返ることができる通知を発行できるようにした。学力不振の生徒への支援を個人面談や補習等で充実させたい。(中学)</p> <p>第2回保護者懇談会や個人面談に前期の成績を踏まえて個々に合った指導をしていきたい。(中1)</p> <p>学力不振の生徒への支援を補習等で充実させたい。(中3)</p> <p>学力推移調査や高校入試模試の結果をふまえて面談をすることができた。(中3)</p> <p>テスト、調査やアセスの結果をふまえて、個々に応じた指導や支援をすることができた。(中1, 2)</p>	24	38	7	1	80.4

評価項目	評価の観点	今年度の取り組み	今年度の成果と反省・来年度への課題	職員評価				
				A	B	C	D	指標
3 教科指導・授業改善	探究的な学びに取り組む姿勢を育てる魅力ある授業が提供できるよう、ICT活用のための研究を進め、教科指導の研鑽に努めることができたか。	<p>校内授業公開の実施5/26-6/10 職員研修会の開催6/15 授業充実のためのアンケート実施9/16-9/30 職員ICT研修会の実施4/28,6/15,9/21 職員研修会②の開催11/9「第5期後のSSHのあり方」 職員ICT研修会の開催 ④11/9「主体的学習態度の良い評価に向けて」事例発表 ⑤2/24「新課程入試概況と情報について」講演 校内授業公開②の実施1/30-2/10「教科問わずタブレット活用授業の見学」 授業充実のためのアンケート②実施2月 (カリキュラムデザイン)</p>	<p>各教科ごとに共通参観授業を決めて意見交換。ICT機器を中心に授業の工夫を共有。 単位制導入・学習評価方針を確認し、観点別評価の教科計画表作成。11月の研修会で課題を共有したい。 生徒の授業満足度が高いことを確認。教科、学年、項目によるバラツキの改善。ロイロ研修、教科別に有効なオンライン授業・ICT活用場面の検討、GoogleClassroomの活用方法を学び、様々な形で職員にICTでの学びに関する情報を提供出来た。 タブレットを活用した授業を見学してICT機器を中心に授業工夫の共有。次年度以降は全校生徒がタブレット所有となるので、更なる有効活用を追究していく。 観点別評価の問題点、改善点を共有し、シラバス作成時に評価の観点と方法を明示することを再確認。 生徒の要望を再確認。個人アンケートを教科で共有することが難しい。 ICT研修は2年実施したので来年度は回数を減らし、職員研修会①②で一緒に行う。それ以外は授業カットしないで必要に応じて実施したい。 (カリキュラムデザイン)</p>	29	36	5	83.6	
		<p>科学リテラシー「卒業研究」「修学旅行に向けた探究学習」「卒業探究学習」(中3) 「棚田学習」「校外課題探究学習」「北陸研修旅行に向けた探究学習」の実施(中2) 「長野市探索」「千曲市探索」の実施(中1)</p>	<p>高校での「課題探究」へのつながりを意識して進めてきた。各自の卒業研究が完成するよう支援していきたい。(中3)</p>					
		<p>オンライン探究学習日、公開授業の実施。(中学) 入学当初から全教科でICT活用を進め、入学からどの段階でどのアプリを活用したか等、職員で共有しながら進めた。(中1) 校内授業研究(11月)</p>	<p>ICT機器を有効活用する方法を相談したり、公開授業での外部からの意見を参考にしたりして授業改善に努めた。(中3) オンライン・探究学習日では、オンラインでも主体的に学べるよう授業内容の工夫を行った。午後の時間の使い方について事前に計画を立てるようにした。 ICT機器を有効に活用した授業づくりに努めた。(中2) 指導主事を招いての校内授業研究を実施したり、板書等の基本事項を全校で確認し統一したりすることができた。今年度は、授業のふり返りを丁寧に行い授業に活かすことができた。(中1) 生徒の実態をふまえ、ICTをさらに有効活用できるよう研究したい。(中1)</p>					

評価項目	評価の観点	今年度の取り組み	今年度の成果と反省・来年度への課題	職員評価					
				A	B	C	D	指標	
4	生徒指導	通学中の交通事故をなくす努力ができたか。	5月「生活安全講話」「交通安全講話」実施(全校) 安全な自転車通学についてのクラス掲示(全校) 5月・7月・9月「交通安全該当指導」実施(職員)	4月、5月、6月は自転車の接触事故が多い。毎年、年度初めの呼びかけや該当指導が重要。(生徒指導) 法改正に伴う自転車運転時のヘルメット使用について呼びかけを強化する。	27	38	5		82.9
			定期的に、駅構内での指導、帰宅時に同乗し乗車指導を行っている。また、方面別に集会を開き、乗車の確認等も行っている。また、学友区会を開催し、地域ごとに集まり通学における危険個所の確認等に努めている(中学) 冬季の自転車通学について全校指導、冬休みの生活について指導(中学)	今期も地域からお電話をいただくことが何件もあった。後追い指導にならぬように、しなければいけない。(中学) 交通安全街頭指導の期間以外も登下校の様子を確認し指導していきたい。(中1)					
	いじめや暴力のない安全な学校生活を送るための啓発活動ができたか。	7月「いじめアンケート」の実施。個別面談の実施。(全学年) 7月「性被害防止キャラバン」(高1) 各種アンケートをもとに生徒の支援に努めたり、いじめ・暴力等をはじめ他者への気遣いをできるように学年集会等で指導した。(中1) 「いじめアンケート」を参考に個別に生徒から話を聞いたり、学校生活の様々な場面でいじめのない学校生活を送るよう指導した。(中3) 12月「いじめアンケート」の実施。個別面談の実施。(全学年) 生徒指導、道徳授業、アセスの実施(中学)	アンケートの結果、特別な問題は見られなかった。今後、学校生活の様々な場面でいじめのない安心安全な生活を送れる学校を目指して気になる生徒をアンテナを高くして見ていきたい。(生徒指導) SNS上での不適切な配信、クラス・班活動内での人間関係が重大な問題にエスカレートしないように、相談や指導を行っていく。 前期の第2回アセスの結果をふまえ、全体、個別に支援していきたい。(中1) 悲しい思いをする生徒が出ないようにアンテナを高くして見ていきたい。(中3) 担任を中心に、学年全職員で指導にあたった。道徳、各種教科の授業において安心で安全な学校生活を送ることができるよう指導した。(中学)	21	47	2		81.8	
4	生徒支援	個別に支援や配慮を必要とする生徒に対し適切な支援を施すことができたか。	担任やスクールカウンセラー・外部機関と連携し、生徒個別の状況に応じた支援を行うことができた。(生徒相談)	引き続き、生徒や保護者に寄り添う適切で細やかな支援をしていきたい。(生徒相談)	32	37	1		86.1
			担任を中心に、生徒、保護者と連絡を密にとり個別に支援してきた。定期的な家庭訪問。細目に声掛けを継続的に行った。また、学年ごとのスクリーニング会議、担当者会、支援会議等を計画して支援に努めた。(中学) 担任を中心に、生徒、保護者と連絡を密にとり個別に支援してきた。(中1) 長期欠席の生徒をはじめ、学年職員で気になる生徒の家庭や生徒本人と連絡をこまめにとって支援をしてきた。(中3) アセス、家庭訪問、放課後登校支援、保護者懇談の実施。(中学)	不登校傾向の生徒については、学年ごとのスクリーニング会議、担当者会、支援会議等を計画し6年間の見通しを持った指導をしていきたい。(中学) 不登校傾向の生徒については、支援会議等を計画し6年間の見通しを持った指導をしていきたい。(中1) 前期と同様に連絡をこまめにとり支援するとともに、高校進学に向けて指導していきたい。(中3) 友人関係やトラブルについて、生徒本人、保護者と連携して支援した。アセスの結果を見ると、今後、学習面での支援がさらに必要であると思われる。(中学)					
5	情報発信	本校の教育活動の成果を、保護者、小中学生、地域に伝え、特色ある学校として理解してもらうことができたか。	7月「松代大本営跡」見学(高1) 9/14職員人権研修会「いのちのSOS」(心の支援課向井健太郎氏)を実施。(人権教育)	「TALK」の原則を職員全体で共有でき、有意義であった。生徒向け講演会も「いのちSOS」です。(人権教育)	26	42	1	1	83.2
			7月に全校人権教育授業を行った。異学年の意見交換は多面的、多角的にとらえるきっかけ作りとなった。また、人権侵害となる社会問題について調べて共有する時間をとり、全校で人権作文を書いた。(中学) 道徳をはじめ、各教科において意識して指導した。また、体罰は絶対にないよう教員間で生徒指導の方法を共有して進めた。(中1) 行事、各教科の学習の中で人権教育を進めてきた。(中3) 全校人権教育、道徳、性に関する学習の実施。(中学)	年間を通じて、異学年と触れ合うタイミングは増やしていきたい。(中学) 後期も教員間で生徒指導の方法を共有して進めていきたい。(中1) 今年度は、全校で人権教育に取り組むことで、他学年の価値観を共有することができた。(中学) 性に関する学習を行い、互いに尊重することの大切さを学んだ。(中2) 道徳の授業をはじめ、全校で人権教育を行い、豊かな人権感覚を育むことができたよう努めた。(中3)					
5	情報発信		4月「学校要覧」作成。5月「第1回授業公開」実施。6月「中学校説明会」実施。「学校案内パンフレット」作成。7月「中学生体験入学」実施。8月「第2回授業公開」実施。10月「附属中選抜説明会」実施。「屋代高校説明会」実施。 「ホームページ」週1回程度の更新。屋代高校前駅ホーム「屋高の窓」月1回程度の更新。(広報)	保護者への一斉送信メールを活用して、コロナへの対応から学年通信の配布まで、情報発信をおこなった。コロナ禍のため、地域の方や地元の中学生に屋代高校に直接足を運んでもらう機会を取りにくいので、情報発信を頻繁に行い、学校の取組や様子を幅広く伝えていきたい。(広報)	31	35	4		84.6
			教育活動を各種報道に発信したり、保護者へは学年通信等で発信したりした。(中1) 総合的な学習の時間を授業参観Weekで参観してもらったり、学年通信等で日々の生徒の学びを紹介したりした。(中3) 卒業研究の実施(中3) 総合的な学習の時間、学年通信の発行。(中学)	後期は、総合的な学習の時間にポスター、チラシ等の作成を計画している。(中1) 後期、総合文化発表会で中学3年間の集大成を見ていただけるよう努力したい。(中3) 地域の方と卒業研究の内容を深めたり、学年通信を利用して、生徒の活動を発信してきた。(中3) 毎週の学年通信で学校の様子を伝え、各種報道機関に依頼して学年行事等の発信を行った。(中学)					

評価項目	評価の観点	今年度の取り組み	今年度の成果と反省・来年度への課題	職員評価				
				A	B	C	D	指標
生徒会	質実剛健の気風を大切に して、執行部と各会員が一体 となった自主活動のための 指導支援ができたか。	前期活動 生徒総会2回、一斉委員会1回開催、週1回定例役員会を開催。さらに行事ごとに必要に応じて各委員会ごとに臨時委員会を開き、生徒の自主的活動を支援できた。 班長会5回、班室清掃3回行い、班活動の活性化を支援した。 後期活動 生徒会選挙後第67期役員選出、一斉委員会1回開催、週1回定例役員会を開催。 必要に応じて各委員会ごとに臨時委員会を開き、生徒の自主的活動を支援できた。 班長会3回、班室清掃4回行い、班活動の活性化を支援した。(生徒会)	引き続き、中高の協力体制や連携のあり方を模索して行きたい。(生徒会)	31	37	1	1	85
		前期活動 鳩祭へ向けて一斉係会3回実施のほか、例年と異なる状況へ対応するために正副鳩長と係職員の打ち合わせ会を週1回実施。 後期活動 新正副係長選出後鳩祭へ向けて正副係長会3回実施し鳩祭テーマ決定。 来年度へ向けて正副鳩長と係職員の打ち合わせ会を週1回実施。(生徒会)	来年度の鳩祭へ向けて、新役員との打ち合わせ会を実施し、内容・対策の検討を始めている。(生徒会)					
	昨年度より、全校参加生徒会として授業内のLHRで実施している。また、10周年という節目に「サステイナブルな学校」と題して、屋代附属中SDGsの提案、10周年記念式典でのイベント計画を行っている。(中学) 鳩祭などの行事だけでなく、常時活動も生徒一人一人の活動を見取り、指導・支援した。(中1) 創立10周年記念の記念制作を進めたり、全校討論会を行ったりした。また、各委員会活動を通して、附属中学校の生活がより充実したものになるように取り組んだ。(中3) 生徒会、生徒総会、生徒会長選挙、総合文化発表会の実施。(中学)	2学年への進級についてふれながら、責任感ある活動に取り組ませたい。(中1) 引継ぎなどの機会を大切に支援していきたい。(中3) SDGsを意識した生徒活動に取り組んだ。また、全校討論会の場を設定して全校でつくりあげる生徒会を意識した。(中学)						
生徒一人ひとりが、生き生きとした活動をする ことができたか。	コロナ対策に注意して準備・運営をすることで、鳩祭やクラスマッチなどの生徒会活動が例年に近い形で実施できた。特に鳩祭は3年ぶりに生徒の家族に公開することができた。 各行事や日常の委員会活動で、コロナ対策に配慮しながらも生徒の自主性を促しつつ内容を充実できた。(生徒会) 全校参加型の生徒会2年目、一人一人に活動の見取りを丁寧に言い支援した。(中学)	全校生徒が生徒会活動に関心を持ち、参加できる機会を増やしたい。(生徒会) 依然として、活動の内容・量に差があるので、全生徒が充実した活動ができるよう計画していきたい。(中学)						
校内 美化	清掃用具の充実を図ると共に、生徒が自主的に校内美化を進められるように、指導・支援を行うことができたか。	日常清掃の際に、生徒と職員がごみ集積所で分別の確認をしている。職員にも清掃分担を割り振り、清掃がきちんと行われるよう日常的に指導をしている。清掃用具の補充は二ヶ月に1回程度行っている。 生徒会清掃委員会と連携し、第1回目のワックスがけ(4/2)、モップ交換(9/2)を行った。古紙等の資源物は買い取ってもらい、生徒会の収入としている。(厚生) 日常清掃の際に、生徒と職員がごみ集積所で分別の確認をしている。職員にも清掃分担を割り振り、清掃がきちんと行われるよう日常的に指導をしている。清掃用具の補充は二ヶ月に1回程度行っている。さらに11月の落葉清掃特別週間に向けた外掃用具やモップのスペアの購入も重点的に行った。生徒会清掃委員会と連携し、第2回目のワックスがけ(11/2)、モップ交換(10/7,1/27)を行った。古紙等の資源物は買い取ってもらい、生徒会の収入としている。 無言清掃に取り組む、学校の美化に努めた。(中3) 縦割り清掃では、通常清掃以上に熱心に清掃に取り組む姿が見られた。(中学)	6月、ごみの収集業者より本校の分別はよくされているとお話いただいた。後期も定期的な用具の点検、補充、古紙等のリサイクルを行う。11月に落ち葉等の外掃を重点的に行う。 生徒会清掃委員会と連携し、第2回目のワックスがけ、モップ交換を行う。 教職員と生徒が共に行うごみ集積所での活動は分別の意識づけにつながった。モップの交換時期については、ばらつきがあったので、次年度は半年に一度、生徒会清掃委員会と連携して実施できるように計画する。また、来年度は、学校の落葉の引き取り手が見つかることがありがたい。(厚生) 無言清掃の意義を生徒会から全校生徒へ発信する。(中3) 清掃についての意識を高めていきたい。年度当初に係から出る方針を全職員で徹底したい。(中学)	18	46	5	1	78.9
		令和4年度 前期 新型コロナウイルス感染症予防についての取り組み 【全体での取り組み】 ・生徒は健康チェックカードへ記入し、担任は朝のSHRで健康観察を実施 ・学校全体の授業や行事を三密にならないよう工夫し、個々でも行動に注意 ・マスクの着用の徹底 ・こまめな手洗いや手指のアルコール消毒の心がけ、意識の向上 ・教室の換気(扇風機の有効活用) ・清掃時に大勢が触る箇所の消毒作業 ・昼食時の黙食 【保健委員の活動】 ・放送で、手洗い、昼食時の注意、換気促進等の呼びかけ ・ハンドソープと消毒用アルコールの補充 ・授業や休み時間の積極的な換気 ・クラスマッチや文化祭等の行事での消毒作業 ・保健だよりを使った啓発活動。中学生はデジタル保健だよりで昼食時に配信 【購入品】 ・ハンドソープや消毒用アルコール、次亜塩素酸ナトリウムや衛生用品を十分確保 ・トイレ清掃用具・便器除菌シートの充実・サーモカメラの設置・校舎の網戸の追加設置 【その他】 ・強制はしていないが、各家庭の判断で予防接種を受ける生徒も大勢いる。	日常の学習活動から班活動まで、すべての活動で感染症予防に取り組み、前期は学校内で感染拡大をさせることなく学校の活動を行うことができた。後期も引き続き感染拡大防止の意識を持続し、また設備や物品面もさらに充実させて、生徒が安心して学習活動や班活動に取り組める環境を整えていきたい。					

指標は、A(4点)、B(3点)、C(2点)、D(1点)として最高100点となるように換算しました。

【換算式】 25 × (4点 × Aの数 + 3点 × Bの数 + 2点 × Cの数 + 1点 × Dの数) ÷ 総数